



## 大学婦人協会年表 (抜萃)

- |          |  |
|----------|--|
| 1946年10月 | 設立。JACA (Japanese Association of College Alumnae)と称した。<br>成立に際し8女子専門学校に参加を招請した。  |
| 1947年5月  | 第1回総会(日本女子大学にて)<br>全国より8支部参加。協会規約決定。会長藤田たき氏。   |
| 1948年4月  | 第2回総会(お茶の水女子大学にて)全国より23支部参加。役員改選。会長菅支那氏。<br>設立以来の助言者ホームズ博士帰国さる。  |
| 10月      | 第1回奨学金授与。受領者4名。(奨学金については以下略)<br>本年までの加盟大学は9校。<br>委員会は、1. 大学基準決定委員会 2. 企画委員会 3. 奨学金委員会 4. 國際委員会 5. 報道委員会 6. 会員委員会 7. 財務委員会。 |
| 1949年4月  | 第3回総会(神戸女学院大学にて)<br>19支部参加。会長 天達文子氏。<br>JAUWと改称 (Japanese Association of University Women)<br>2委員会新設。(学校教育委員会、婦人地位向上委員会)   |
| 6月       | 会報第1号発行。   |
| 11月      | 会報第2号発行。   |
| 1950年3月  | 第4回総会(東京女子大学にて)<br>18支部参加。会長 山崎光氏。   |
| 1951年4月  | 第5回総会(お茶の水女子大学にて)<br>23支部参加。会長 細谷よし氏。  |
| 1952年4月  | 第6回総会(日本女子大学にて)<br>20支部参加。<br>ホームズ女史より奨学基金として500ドルを寄贈さる。   |
| 12月      |  |
| 1953年4月  | 第7回総会(東京女子大学にて)<br>会長 野見山不二氏。<br>4校の新加盟をえて加盟大学は13校となる。   |
| 1954年4月  | 第8回総会(奈良女子大学にて)<br>5校の新加盟をえて加盟大学は18校となる。<br>7月<br>会員証作成。   |
| 1955年4月  | 第9回総会(日本女子大学にて)<br>会長 山崎文子氏。<br>婦人文化章を10氏に贈呈。<br>2校の新加盟をえて加盟大学は20校となる。<br>第1回ホームズ奨学金を東京女子大学学生鬼頭文緒氏に授与。<br>(この件以下略)         |
| 1956年4月  | 第10回総会(津田塾大学にて)<br>19支部参加。<br>3校の新加盟にて加盟大学23校となる。  |
| 1957年4月  | 第11回総会(お茶の水女子大学にて)<br>2校の新加盟にて加盟大学は25校となる。<br>11月<br>臨時総会(日本女子大学にて)<br>社団法人大学婦人協会成立。定款承認。                                  |
| 1958年4月  | 社団法人大学婦人協会第1回総会(東京女子大学にて)<br>(学校名は現在の名称による)  |



新旧理事の集い

二月十九日桜蔭会館に於て三時半から新旧理事二十一人が出席し、協会の当面する問題や将来の方針について活発な意見が交わされた。出席者は皆過去に於て協会の為でその経験にもとづいた発言は有益なものであり、今後の協会の活動に大いに生かされるべきものであると感じた。

(青木満里子記)

二十年の記録を  
かえりみて

基準委員長 近藤勝代子

大学婦人協会もことしで  
満二十年をむかえます。基  
準委員会では、どの大学が  
いつ加盟したのか委員会の  
記録でも古いところははつ  
きりしない点もあり、散逸  
したものもあって、かねが  
ね非常に困って、ぜひはつ  
きりさせたいと思っており  
ましたところへ、国内奨学  
委員会からも同じ件について  
お問い合わせがありまし  
た。そこで私は古くからの  
会員の方々にもいろいろお  
うかがいいたしましたが、  
結局人間の記憶のみでは古  
い事柄は不たしかな点が多  
いことを痛感いたしました  
ので、昔の会報やその他の

諸記録をしらべ、加盟年度  
一覧表をつくりました。  
また、膨大な記録をしら  
べて行くうちに、基準委員  
会のことばかりでなく、大  
学婦人協会の歩みについて  
もいろいろなことがわかつ  
て来ましたが、まとまつた  
記録が少いために、これだ  
けのことがわかるためにも  
大変苦労をいたしましたの  
です。今後さらに年数をか  
さねるに従つて、調査はま  
すます困難を加えるおそれ  
がありますので、二十年を  
記念して、新しい会員や将  
來の会員の方々のために、  
基準委員会と奨学委員会を  
中心にした、簡単な大学婦

基準委員長  
近藤勝代子



### 加盟年度一覽表

|            |            |        |
|------------|------------|--------|
| 1 日本女子大学   | 19 熊本大学    | —1955年 |
| 2 お茶の水女子大学 | 20 新潟大学    |        |
| 3 津田塾大学    |            |        |
| 4 聖心女子大学   | 21 青山学院大学  |        |
| 5 東京女子大学   | 22 広島大学    | —1956年 |
| 6 奈良女子大学   | 23 東京教育大学  |        |
| 7 神戸女学院大学  |            |        |
| 8 同志社女子大学  | 24 広島女学院大学 |        |
| 9 大阪女子大学   | 25 神戸大学    | —1957年 |
| 10 慶應義塾大学  | 26 学習院大学   |        |
| 11 立教大学    | 27 法政大学    |        |
| 12 東京大学    | 28 京都府立大学  | —1959年 |
| 13 早稲田大学   | 29 明治大学    |        |
| 14 北海道大学   | 30 関西学院大学  |        |
| 15 京都大学    | 31 大阪市立大学  | —1962年 |
| 16 九州大学    | 32 察践女子大学  |        |
| 17 大阪大学    | 33 名古屋大学   | —1963年 |
| 18 東北大学    |            |        |
|            | 34 立正大学    | —1964年 |

一、インドネシア  
　　インドネシアは三千余の島嶼から成る多島國家で、ジャワ本島以外を外領諸島と云う。紀元前二世紀頃から印度との貿易を通じてヒンズー教、仏教の影響を受けた。十四、五世紀になるとイスラム教(回教)が入った。殆ど同時に香料貿易のためポルトガル、オランダがやって来たが其後徐々にオランダの政治力下に入つた。オランダはジャワ人の貴族を手なづけ、彼等を通して原住民に砂糖、茶、コーヒー等の強制栽培をさせ、大きな利益を上げた。民族主義運動ののろしが上層部で一九〇八年に貴族層出身の官僚がインドネシア人社会の発展と福祉を目的として結成した。この組織はブディ・ウトモとよばれた。

次いで華僑に対抗して団結しなければならないといいう意識の下に結成されたのがサレカートイスラムである。この中からオランダの社会主義の影響を受けて、一九二〇年にインドネシア共产党がつくられた。二五、六年頃迄民族主義運動のイニシアティブを取つたのが、一九二六年反乱を起こし、オランダ政府に弾圧された。

一九二七年、スカルノによってインドネシア国民党(Parti Nasional Indonesia略してP.N.I.)と云が結成された。一九四五年八月十七日、青年民族主義者がスカルノ、ハッタ等の指導者をつきあげて独立戦争にふみ切らせた、一九四五年的総選挙の結果P.N.I.が第一党となり民族統一戦線方式(都市プロレタリア、ブル、民族ブルジョアジーの統一)を提唱した。以來六年五現在迄インドネシアの政体はスカルノ大統領の発想による指導民主主義(ガイデンドモクラシイ又はデモクラシー・ウェイズリーダーシップ)を基盤にしていた。権力の中心は

# 東南アジア諸国の政治事情

## 長井信

## ==== 講演要旨 <10月2日・11月6日> ===

――講演要旨<10月2日・11月6日>――

## 東南アジア諸国の政治事情

### 長井信一

ラッカを除いた九つの州の首を選んだ。元首の任期は五年である。マラヤの政体を「複合社会」(ブルーラン・ソサエティ)と名づけている。何故ならその人々構成は、(1)土着民(マラヤ人)、(2)中国系(華僑)、(3)印度セイロン系等である。中規模農園、サービス部門等印度セイロン系はゴム園、錫鉱山の労働者が多

トナつていてこれは職業的区分ともなつてゐる。即ちマラヤ人の九割は農業漁業、中国人はゴム大農園、スカルノ対軍部、スカルノ対共産党の関係がインドネシア政治権力の重要なポイントである。

#### 二、マラヤ

一五一一年にポルトガルがマラッカを征服、一六四〇年にオランダの手にうつた。一七一六年イギリスがペナンを根拠地として進出、一八二四年、イギリスの広東貿易中継地點とした。十八世紀後半に、それ迄にあつた九つのサルタン土侯国を次々に支配下に入れたのが英國のマラヤ半島植民地化の始まりである。英國の植民地政策は分割統治であつた。一九五七年八月三十一日に独立主権国家の地位を確立し、九つの植民地にマラッカ、ペナンを加えてマラヤ連邦とし、英国民の政治制度を整った。邦議会は百四名の議員から成り、ペナン、マラヤ、マラヤの九割は農業漁業、中国人はゴム大農園、サービス部門等印度セイロン系はゴム園、錫鉱山の労働者が多

い。  
一九六三年九月、マラヤ連邦十一州にシンガポールとサラワク州、サバ州が会体してマレー・シヤが出来た。然し全人口の七五%がボーグは去る八月、分離独立した。サラワク州、サバ州も多数の華僑を擁し、その動向が重要な問題である。

東南アジア研究会

十二月十一日と一月八日の講演より

国を進歩するに於ける農業の問題は、この國の農業の問題である。即ち輕工業（紡績等）から重化学工業の時代になり、戰後は殊に化学工業品が盛になり、色々な原料に代る化学製品が一般に低く供給されるようになつた。又代替品工業が盛になり、色産されるようになつた。又昔のイギリスの産業改革の時代と異り、今の先進の多くは、自國の農業をもつてゐる為、その保護政策として輸入品に關税を課してゐる。又アメリカのするよ。

うに、大量の余剰産物を、自国内の価格維持の為、外國へ援助物資として安い価格を指定して出したりする事なども後進國の貿易を害する事になる。では先進國の農業放棄は可能かといえども、之は国防的見地から方である。即ち輕工業（紡績等）から重化学工業の時代になり、戰後は殊に化学工業品が盛になり、色々な原料に代る化学製品が一般に低く供給されるようになつた。又代替品工業が盛になり、色産されるようになつた。又昔のイギリスの産業改革の時代と異り、今の先進の多くは、自國の農業をもつてゐる為、その保護政策として輸入品に關税を課してゐる。又アメリカのするよ。

た一即ち次第に独占的に來た為、工員の必要、生産の転業も考えられなくなつて来たと云う事實から不能である。

所謂「南北問題」と呼ばれるのはこの先、後進の二國の間の不均衡から生じてゐる。又日本はこの先、後進の二國の間の不均衡から生じてゐる。又日本はこの問題を指すのである。

一九四七年にきめられたG A Tは自由貿易を發展し、為に今日の不均衡を是正し、為に今日の不均衡を是正し、為に今日の不均衡を是正し、為に今日の不均衡を是正し、為に今日の不均衡を是正し、

三

してやる。

大学婦人協会の為に

前役員  
上野シゲ

去る二月十九日の新旧役員交歓茶会に出席した。久ぶりに桜陰会でなつかし方々にお会いして、苦楽共にした友達と語りあうはいいことだと思った。その頃は遠い道もいとわざが家もすててたようこの委員長が「その日ぐらしの大学婦人協会の募金運動は、当時毎年運営資金の捻出になやんだあげく、企画が強く要望されていた。本があと一歩進むことをあれば彼の残した業績は永くに続き、栄えてゆくことであろう。

募金の使途については内外留学生会館、本部建設等

多中になつて、会のためにさしたのに、用ひみの今日は一向足が協会の方にむかないのは、どういうわけがない、まず任期満了で、それ照子さんにお願いしたのはじまつた。照子さんは病部役員はそれらの敷地見分のため千葉県庁まで出張したこともあつた。都内の各處へ敷地候補、適當な候補建築、ビルの一部等を物色して歩いたことも度々であ

から心に緩みが来たせい  
、大体私のところからは  
部は距離があり過ぎる。  
苦を押して、一千万円募金  
案を総会に提案、六十万円  
の利子を得るという線を出  
きた同じようなことを北  
村現会長もなされたと先日  
うかがって、お気の毒にと  
思った次第である。

よりよい方ではない。足が  
多い幾何かの理由があるら  
その実行はひたすら山崎  
文子募金委員長、彼女を旗  
頭にてて行こう、とるべ  
まりにもみすぼらしい、国  
際会議もいつかは日本でも  
開かれねばならぬので

大会社でも老舗とよばれ  
商売でも、或はまた一家  
国でも、ながい歴史を持  
てゐる。しかし、何といつても現在  
のままでは国際社会に肩を  
並べるJAUWの姿ではな  
き、さうした運動が展開された。

時間と労力、物質と熱情  
の積み重ねにおいて出来  
るものである。間がきれ  
其他多勢の名前をここにあ  
げつらねるわけにいかない  
が、この仕事達成の秘訣は  
大學教育を受けた者はど  
うして団体組織の中にてけ  
こみにくいのだろうか、忙

要するに多變の主義の實行が如きの如く語る。勿論上に力の賜であつた。勿論上にある。社會への意味からも立つ人々の統率力も忘れて、ウォランティア精神の焰をかきたててもいいのではなかつた。

か。一人の大人物が死ん  
然し目標に至らず九百万  
に足らずしてバトンタッチ  
となつた。以来心にかかる  
かろうか。それ共協会側の  
PR やおよびかけは如何なもの  
のだろう、大いに PR して  
は我の手でこころで働き遂

## 昭和41年度大学婦人協会予算案

| 新刊紹介 |



| 収入之部         |           | 支出之部       |           |
|--------------|-----------|------------|-----------|
| 項目           | 金額        | 項目         | 金額        |
| (1) 基本財産収入   | 640,000   | (1) 事務費    | 2,062,000 |
| 基金利子         | 620,000   | 給料         | 342,000   |
| ホームズ基金利子     | 20,000    | 諸器・備品      | 100,000   |
| (2) 運営財産収入   | 12,000    | 消耗品        | 20,000    |
| (3) 会費収入     | 1,920,000 | 消耗品        | 155,000   |
| 正会員会費(1700人) | 1,170,000 | 印刷費        | 15,000    |
| 〃維持費(20人)    | 20,000    | 通信費        | 30,000    |
| 〃入会金(200人)   | 20,000    | 事務所費       | 110,000   |
| 贊助会員会費(30人)  | 150,000   | 一般諸経費      | 70,000    |
| 総会費          | 30,000    | 報発行費       | 40,000    |
| (4) 事業収入     | 115,000   | 会議費        | 170,000   |
| 審査料          | 35,000    | 国際会議費      | 220,000   |
| その他の         | 30,000    | 理事會費       | 50,000    |
| 催物参加費        | 50,000    | 総会費        | 30,000    |
| (5) 寄付収入     | 400,000   | I F U W 会費 | 140,000   |
| 事業助成金        | 360,000   | 支部費        | 265,000   |
| 広告料          | 30,000    | (2) 事業費    | 680,000   |
| その他の         | 10,000    | 国内奨学部      | 106,000   |
| (6) 運営分担金    | 60,000    | 国内奨学金      | 340,000   |
| 前年度繰越金       |           | ホームズ〃      | 310,000   |
|              |           | 国外奨学部      | 30,000    |
|              |           | 国際第一部門     | 50,000    |
|              |           | 国際第二部門     | 50,000    |
|              |           | 財務部        | 20,000    |
|              |           | 企画部        | 10,000    |
|              |           | 教育部        | 30,000    |
|              |           | 婦人地位向上部    | 40,000    |
|              |           | 社会福祉部      | 30,000    |
|              |           | 大会報道部      | 10,000    |
|              |           | 基準部        | 10,000    |
|              |           | 大会員道徳部     | 10,000    |
|              |           | 道徳研修部      | 30,000    |
|              |           | 予備費        | 350,000   |
|              |           | (3) 支部振興費  | 50,000    |
|              |           |            | 160,000   |
|              |           | 次年度繰越金     |           |
| 41年度収入       | 3,147,000 | 41年度支出     | 3,282,000 |
| 総計           |           | 総計         |           |

「住まいと暮らしの十二ヶ月」は神戸支部の竹内さく子姉（神戸山手女子短大教授）が三十九年一月から十二月まで毎週ラジオ関西を通じて放送されたお話をまとめです。私どもにとつては習慣に馴らされてしまつて小さな工夫も忘れている点も多々あるホームマネイジメントを実際に計画的に科学的に情緒的に示してくださいます。

家具の手入れ、購入の場合の目的のつけどころ、押入れの設計、利用のし方、クリスマス折のツリーの用意

や手入れ飾りつけなど暖いホームづくりに有難い参考となりました。

新入会員

東南アジア研究の一一年

| 新入会員          |  | 東京支部  |
|---------------|--|---|
| 二月            | 吉井登美代  | 渡辺 とし   |
| 二月            | 津田塾大学  | 福井支部  |
| 二月            | 実践女子大  | 柳原 保子   |
| 下条 千代         | 内藤不二子  | 内藤不二子   |
| 半田たつ子         |  | 半田たつ子   |
| 会員だより         |  |   |
| 津久井 喜子        | またしばらく御無沙汰致しましまいましたが、お元気で毎日各方面にお忙しく御活躍のことと存じます。 私の方は、一月の十七日から十一日にかけて、前に紹介した Ph. D writer Comprehensive Examination の歴史、監査( | degree Candidate として認められぬいじになり、あと、多分一年半ほどかかるべく論文を済ませれば学位をいただける筈で) もかみす。(中略)<br>私の妹が今年の三月大学院から修士号を取つて卒業する予定になつておりますので、私からのささやかな卒業祝として、JAUWへの入会の許可をとつて贈りたいと思うのですが、入会費を払つて、私からのささやかな卒業祝として、JAUWへの入会の許可をとつて贈りたいと思うのですが、入会費を払つて、及び第一年目の会費を私から負担させていただきたいと思います。(後略) |
| nobuko Tsukui | 加藤ハシロ様宛  | Lincoln, Nebraska 68502   |
| 1926 So, 25   |  |   |

会員だより

# 東南アジア研究の二年

一昨年の春、JAUW共

は何よりの収穫であった。

東京では支部主催の会と

通のテーマとして東南アジアの研究をはじめてから満

本部国際部の催しとを通算して昨年度は八回の講演会を開いた。今年度は講演会

永井道雄氏の『日本とアジアの文化交流』についての御講演をもって結びの会と

形成による四回の集りの外、アジア経済研究所での

この二年間の東南アジアは、ベトナムの戦火の拡大、シンガポールの独立、

グループ研究、大使館訪問、留学生招待等実際に学ぶ

会もあり良い集りをもつことが出来た。大使館訪問は

インドネシア大使館婦人会

の御好意で、民族舞踊と音楽の御披露もあり、インド

ネシアの社会教育等について

私共の研究会も正確な知識どおり変化に満ちていた。

本部企画部では既に東南

アの研究をはじめてから満二年を迎えた。東京では二月末に教育会館で開かれた

御講演をもって結びの会と

した。

この二年間の東南アジアは、ベトナムの戦火の拡大、シンガポールの独立、

インドネシアの政變等、まさに流動するアジアの言葉

ても婦人方と親しくお話し

あつたが、支部会員も百名

に上る多數が参加されよい

交歓の機会となつた。

アジアから女子留学生を招く計画を進めて居られる。

この二年間の勉強を基礎と

ものに育ててゆくと共に、

それを又私共の出来る範囲

で役立てて行く為にも留学

して私共の理解を更に深い

生を招く計画は是非充実し

たものにしたいものであ

る。最終回の永井氏の御演は留学生の受け入れ方について非常に示唆に富む講演で今後の指針ともなものであった。

先月末地方支部からも南アジア研究会について数の御報告が本部に寄せられている。講師その他で不自由のある支部でもそぞれ工夫をこらされた有能な研究会を続けていたら御様子是非常に心強く嬉しいことである。東南アジア研究の二年、各地に灯つ、研究の燈火を消すことなく不斷に前進する新しい時代への理解を深めて行きたるものである。

第一部研究篇、第二部資料篇、第三部校異篇とし、第一部研究篇において

國  
田  
百合  
定価 A 5 子著  
六〇〇〇田 七六四頁

## 女房詞の研究

日女大助教授文学博士

女房詞の資料を全文翻刻体系に論述

第二部資料篇においては、『禁裡女房内々記』『洞中年中行事』『女房羨書』『女重宝記』『女中詞』『女中ことばづかひ』の全文を影印するとともに翻字文をも収めている。

第三部校異篇においては、『女中言葉』『女言葉』『草むすび』の全文を影印するとともに、内容語彙の相違を付説しもつて女房詞を体系的に研究している。

文部省助成學術図書  
風間書房刊